

## 令和 2 年度 予 算 の あ ら ま し

令和 2 年度那珂川町一般会計予算は、7,950,000千円となり、前年度予算に対し、150,000千円減（1.9%減）となった。この主な要因は、子育て支援住宅運営事業費、地方道路交付金事業費などが増額した一方、小川総合福祉センター施設管理費、畜産振興事業費、中部中山間地域総合整備事業費、小川中学校施設整備費などが減額したことによるものである。

特別会計は、ケーブルテレビ事業特別会計、国民健康保険特別会計、農業集落排水事業特別会計で減額となったが、後期高齢者医療特別会計、下水道事業特別会計で増額となったため、特別会計の予算総額は4,881,000千円となり、前年度予算に対し、9,500千円の増（0.2%増）となった。

ケーブルテレビ事業特別会計予算は、218,000千円で、公債費の減により、前年度予算に対し、6,000千円の減（2.7%減）となった。

国民健康保険特別会計予算は、2,140,000千円で、一般被保険者医療給付費及び後期高齢者支援金の減により、前年度予算に対し、2,000千円の減（0.1%減）となった。

後期高齢者医療特別会計予算は、219,000千円で、後期高齢者医療広域連合への納付金の増により、前年度予算に対し、9,500千円の増（4.5%増）となった。

介護保険特別会計予算は、1,945,000千円で、介護サービス給付費及び、介護予防費が主なもので、前年度同額予算となった。

下水道事業特別会計予算は、313,000千円で、施設管理費の増により、前年度予算に対し、13,000千円の増（4.3%増）となった。

農業集落排水事業特別会計予算は、46,000千円で、施設管理費の減により、前年度予算に対し、5,000千円の減（9.8%減）となった。

水道事業会計予算は、708,500千円で、施設管理費の増により、前年度予算に対し、17,520千円の増（2.5%増）となった。

これにより、一般会計及び各特別会計並びに水道事業会計の予算総額は、13,539,500千円となり、前年度予算と比較して、122,980千円の減（0.9%減）となった。

一般会計における歳入の財源内訳、歳出の性質別内訳は、次のとおりとなった。

●歳入内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
自主財源	3,114,637千円	39.2%	2.6%増
依存財源	4,835,363千円	60.8%	4.5%減

●歳出内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
投資的経費	549,292千円	6.9%	29.1%減
消費的経費	5,115,544千円	64.3%	0.9%増
その他の経費	2,285,164千円	28.7%	1.4%増

歳入の構造は、自主財源において、法人町民税などの町税が減額するなど、厳しい状況にあることから、財源不足を補うため財政調整基金からの繰入金を増額することとなり、3,114,637千円（対前年度比78,822千円増、2.6%増）を計上した。依存財源については、普通交付税が合併特例期間の10年を経過し、段階的縮減が実施されているところであるが、公債費等の需要額の増加を見込み、前年度同額としたものの、分担金及び負担金、国庫支出金、県支出金においては減額となった。町債については、学校の改修工事費が減額となったが、引き続き、町道76号線などの町道改良舗装事業や、消防ポンプ車購入費に充当することとし、将来の財政負担に支障がないように過疎対策事業債や合併特例事業債などの有利な起債を活用する。また、財源補てんに充当する臨時財政対策債については、国の令和2年度概算要求を踏まえて、200,000千円を計上した。この結果、依存財源は、4,835,363千円（対前年度比228,822千円減、4.5%減）となった。

歳出については、町民ニーズを検証し、安心・安全な生活基盤を構築するため、費用対効果の観点から、各事務事業の見直しを行い、創意工夫と柔軟な発想を持って、予算を編成したところ、対前年度比150,000千円減、1.9%減の予算となり、「第2次那珂川町総合振興計画」に基づき「那珂川町人口ビジョン」及び、「那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた地方創生に向けた取り組みなどに重点を置き予算措置した。